

吉田徳次郎先生の憶い出

安藤豊祿

吉田先生に始めて御目にかかったのは恐らく大正の末期であったでしょうか。私の記憶では其頃の先生と晩年の先生との間に年令的の感じに於て、殆んど差がない様な気がしてなりません。先生と雖も間違なく御容貌も物腰も大いに変わったのでしょけれど、先生の研究に対する御熱意なり御気魄なりは、むしろ強くなられた位でしたから、此のことが、私をして先生が変わらない如くに感ぜしめた原因と思はれます。

コンクリートに関する先生の御学識、御研究、御経験従って又御功績に関しましては、とても私共が筆舌に尽すことは出来ません。其道の最高の人を言い表わすのに様々な言葉がございますが、その何れを用いても、或いは其の言葉の幾つかを同時に用いしても、先生を十分に表徴するには、尚多分に不足するだろうと私には感ぜられます。

併し先生の学問上の偉大な足跡にも増して、私共の胸に刻み込まれて居ることは、先生の御人格であり、御人徳でありました。私はセメント製造技術の関係でありますから、セメント使用に関する学問を御専攻の先生とは口はばったい申し様でございますが、或程度の対立的の立場になることも自然あり得るのでありましたが、先生の御考へは、何れの場合にも明朗闊達で、且つ大変に御親切の溢れた御話でございましたので、常に頭の下る思いがいたしました。

セメント技術協会が毎年行ないます研究発表大会の後の晩餐会で、殆んど必ず先生のなされるテーブルスピー

チは実に滋味豊かな御話で、軽妙の中にも深い示唆があり、甘き御心持ちの中でもびりっとしたヒントがあり、実に聞くに楽しく、顧みて有益なるスピーチでありました。私はセメント業者としてこの晩餐会に出席いたしましたが、いつも先生のスピーチを伺ふことが言はば最大の楽しみであったことが今更の如くに思い起されます。

良きコンクリートを作られる御立場から先生は、セメントの品質について、非常に大きな御関心を持って居られました。私共新しい技術によるセメント品質向上の御話を申し上げますと何時も、自分の事の様に喜んで眼を輝かせて耳を傾けられました。

セメント品質の向上を人一倍熱望せられ乍らも、セメント製造上の技術の限度と言う点をよく看破せられて、理論上はとにかくとくして、実際の大量生産の場合に実行出来ない様な難かしい品質を、一方的に押しつける様なことを決してせられませんでした。

それだけに一般工学技術の進歩によって、製造技術の向上が期待せられる場合には、先生は非常にこれを主張されました。これが又セメント製造技術進歩の上にも少なからず、よき影響を与へたことは、否む由もありません。

私は長く韓国に居りましたので、同地で先生を御迎へすることが、何回かありました。鴨緑江の水豊ダムを視察御指導せられた時のことは、今尚、私の耳に残って居ります。

セメント業界といたしまして、此の比類なきコンクリート大学者であられた吉田先生の御逝去は、ほんとうに大きな損失であり又深き悲しみであります

(小野田セメントKK社長)

(注：本文は期日の関係で 10 月号に登載できなかったので本号に登載しました。なお本稿は原文のままです。)

会 員 欄

吉田徳次郎先生の追憶を読んで

檜垣正也

土木学会誌第 45 卷 10 号の国分先生の「吉田先生のお人柄」を拝読しまして感激いたしました。立派なえらい先生が、人にまして「一步一步の着実な努力の集積だけが進歩を生む源」「実験を軽んじては進歩は期待できない」「むずかしい問題も倦まずやっつていれば何んとか

なる」これらの故吉田先生の教訓は、わたくしのごとき初級技術者をいかに奮発させることか、謙譲にして誠実なる国分先生の文によりいかに感銘をうけたことか、これは決して私一人ではありますまい。

[筆者：正員 今治市土木課勤務] (1960. 10. 31 受付)